

市内で行われた活動やイベントを紹介します。

まちの顔

MACHI NO KAO

国指定重要無形民俗文化財「気多の鶺鴒の習俗」

鶺鴒 祭り

12月12日(土)
13日(日)



鶺鴒道中で鶺鴒浦の海岸線を歩く鶺鴒捕部



鶺鴒田・鶺鴒家に向かって2礼2拍手1礼をする



休憩場所の春成酒造の玄関先

国の重要無形民俗文化財に指定されている「鶺鴒祭り」。12月12日(土)から13日(日)にかけて市内を巡行。その後、中能登町を抜けて羽咋市の気多大社に14日到着。16日午前3時に鶺鴒祭神事が執り行われ新年の豊凶を占う。

今年の鶺鴒捕部に任命されたのは、沢井家、鹿崎家、行長家。すっきりしない天候の中、3人の鶺鴒捕部は「うっとりペー！うっとりペー！」と呼ぶ人、鶺鴒を籠に入れて担ぐ人、お賽銭を請ける人と順に並んで道中を歩いていた。町の人は「うっとりペー！」と声がすると、「鶺鴒様」を一目見ようと家から出て沿道で手を合わせ、新年が平穏な年になるよう願っていた。全国的にも貴重で珍しい習俗「鶺鴒祭り」。後継者不足の悩みがあるが、今後も維持継続できるよう関係者だけでなく地域全体で考えていく必要があるのでは。



「鶺鴒様を見ようと道の中のをぞく家族



気多大本宮神社での新嘗祭

北星小学校 もちつき大会

12月2日(水)



きねを大きく振り上げて...



もちにあんこときな粉をまぶす児童



もちの出来上がり！



作り立てのもちを食べる低学年の児童



保護者と一緒にもちをつく



作り立てのもちは、なかなか切れない！

北星小学校では、学校田で収穫されたもち米を使ったもちつき大会が全校児童76人と保護者や地元の方々20人ほどで行われた。慣れない手つきで重いきねを使い「よいしょ！よいしょ！」の掛け声に合わせて、もちをついた。6年生は、きな粉とあんこをつけたもちを皿に並べ、児童全員で試食。アツアツでおいしそうなお表情に。お世話になった地元と方々にも配られた。

学校と地域とが一体となった取り組みは日本各地至るところで行われている。このような取り組みのなかで、地域の活性化につながるヒントが隠されているかもしれません。今一度、自分の住む地域について考えてみてはいかがでしょうか。



11月17日:七尾市役所

七尾市青年団協議会の会長大崎誠也さん(写真左)と副会長鯨津仁希さん(写真右)が11月13日～16日に行われた第58回全国青年大会での成績報告のため市役所を訪れた。創作芸能の部に出場した西湊鬼楽太鼓は、審査員から高評価を受けるほどの素晴らしい演奏で見事に最優秀賞を受賞。

全国青年大会
最優秀賞
七尾市青年団協議会
創作芸能の部で



11月20日:七尾市役所

12月1日～31日までの期間、和倉温泉一帯で「温玉グルメ博覧会」を開催するにあたり、和倉温泉観光協会のメンバーと和倉温泉のマスコットキャラクター「わくたまくん」がPRに訪れた。温泉玉子を使った商品販売などを繰り広げ、誘客促進につなげたいと、「わくたまくん」もよろしくね!

「わくたまくん」も元気にPR
和倉温泉観光協会



11月19日:中島保育園

中島保育園で地元の食材を使った給食が作られた。園児が自分たちで刈り取ったお米、中島産カキ、中島菜、りんご、ジャガイモなど、地元で採れる食材のみで作ったメニューということもあり、園児たちは口をそろえて「おいしい!」と。生産者の方々も笑顔で園児と食事をとにした。

地元の食材を使った給食
「おいしい!」
中島保育園



12月1日:西川さん宅

12月1日(火)袖ヶ江町の西川キヨさん(明治42年11月25日生)が100歳の誕生日を迎えたことにより、武元市長がお祝いに訪れた。西川さんは、家族が作ったものを好き嫌いなく食べ、ほとんど病気にせず健康そのもの。水戸黄門を見ることを楽しみにしている。

百寿(100歳)お誕生日おめでとう
西川キヨさん



11月23日:能登食祭市場

11月23日は「かきの日」。能登食祭市場で能登カキ1千個が振る舞われた。日本一と書かれた七輪で焼かれたカキを食べようと、観光客で長い行列が出来るほど。まだまだ小ぶりのカキは、寒い冬に入ると大きくなり、プリプリでおいしくなる。

日本一の七輪で冬の味覚カキを堪能
能登かき養殖漁業振興会



12月9日:ケアハウス・ピハラの里

12月9日(水)ケアハウス・ピハラの里に入所している中谷きみさん(明治42年12月9日生)が100歳の誕生日を迎えた。武元市長もお祝いに訪れ、長生きの秘訣はと問いかけると「よくよしないこと。もったない精神でよく食べること」と、しっかりと口調で答えていた。

百寿(100歳)お誕生日おめでとう
中谷きみさん